

将来の職業・ 仕事探しの旅

私の職探しの旅

いきなり私の昔話からですが、小学生のとき、なりたい職業はプロ野球の選手でした。それが中学生にはプロテニス選手、高校生では建築家と、その時々興味に沿って変化していきました。ところが大学生になり、自分がなりたい職業がわからなくなってしまいます。自分の興味が広がり過ぎたこと、自分の社会人としての能力に自信が持てなかったこと、そもそも働くことがよく分かっていなかったこと、など様々な理由がありました。結局、社会人としての自覚や働くことの意味を理解することなく、ただなんとなく旅行会社に就職し、営業や添乗に飛び回るようになります。そんなわけで、すぐに働くことに行き詰まってし

宮本 大

Dai Miyamoto

【研究テーマ】

労働経済学



まいりました。もちろん自分の甘さが招いた結果だったので、この状況を打破すべく、働くことについて考えるために大学（院）へ戻ることにしました。当初は院修了後に会社に就職しようとこれまた甘く考えていたのですが、大学時代にあまり勉強していなかった私には大学院で学ぶ経済学はどれも新鮮で、とりわけデータによる実証分析が私のハートをわしづかみにしました。それからはせっせと図書館に通っては、働くことや労働に関連する調査結果をコピーしては、データをパソコンに入力し、分析する日々を過ごし、30歳を目前にして、ようやく働くことや労働について研究する研究者になろうと決めた次第です。

日本の職探しの旅の実態

私の場合、会社を辞めた後に今の職業と巡り合いましたが、これは例外的なことでしょうか。実はそうではありません。まず日本における職探しの旅をみてみましょう。最近の小学一年生がなりたい職業は、男の子は10数年連続で圧倒的にスポーツ選手が1位です（*1）。女の子も連続で看護師が1位となっています。高校生になると、男女とも教員が1位ですが、圧倒的ではなく、差のない下位に公務員や医師など、なりたい職業が分散しています（*2）。さらに半数以上の高校生は「自分の就きたい職業がわからない」として進路選択の悩みを経て大学生となり、その

*1 株式会社クラレ『新小学1年生の「将来、就きたい職業」、親の「就かせたい職業」に関する調査』より

*2 ベネッセ教育総合研究所『第2回子ども生活実態基本調査報告書』より



後、就職活動で一生の職業かはさておき、就職先をみつけ、社会人となっていきます (*3)。

では社会人になった人たちはどうかというと、厚生労働省の調査によると、せっかくみつけた職業を入社3年以内に辞めてしまう大卒新入社員は入社した人の30%近い状況です。これは十数年間同じです。つまり大卒新入社員も何をしたいか迷いながら就職している様子が伺えます。ちなみに、高卒は50%ほど、中卒は70%ほどが同様に辞めてしまい、それぞれの10の桁の数値を取って、この現象を「七五三離職」と呼んでいます。また、労働者全体で60%ほどの人が、正社員でも50%近い人が転職をしたことがあると答えています (*4)。それほど少なくない人たちが社会人になってからも一生の職業を探し求める旅をしているのです。こうした日本の実態が意味することは、職や仕事探しの旅は小中高大と進んで就職という一本道だけではないということです。また職業や仕事を定めることは簡単ではないということも示しています。

これからの職業・仕事探しのために知っておくべきこと

自分でいろんなことを経験し、そして自分で考えることが重要ですが、考えるために知っておくべきことがいくつかあります。まず近年の労働を取り巻く環境が急速に変化

*3 ベネッセ教育総合研究所『高校生活と進路に関する調査2015』より

*4 リクルートワークス研究所『ワーキングパーソン調査』より

していることです。二つの大きな変化があり、一つはグローバル化です。今、世界では国や地域を超えて、経済や文化が連動し、相互依存関係を深めています。これからは海外に目を向けることが重要です。もう一つはIT化などの技術進展です。技術進展は労働に大きな影響を及ぼします。英オックスフォード大学の研究者によると、2020年代にIT化によって機器に置き換わり、消えてしまう仕事は、事務作業をはじめ、銀行の融資担当、保険の審査担当、ホテルの受付係など現存する仕事の半数に及ぶと言われています。その一方で、米の教育学者によると、IT化の進展は新たな職業を生み出し、現在（2011年時点）の小学1年生が大学卒業後、65%の人たちがそうした新しい職業に就くことになると予測しています。もちろん、こうした予測には誤差がありますが、変化の方向は間違いないでしょう。

では、これから将来の職業や仕事を見つけるために、私たちはどうすれば良いのでしょうか。様々な解があると思いますが、その方向性の一つを提案しておきます。経済や社会が大きく変わり、自分の職業が機器にとってかわられたり、国外へと消えたりしてしまうことがあるかもしれません。そのとき慌てないように常に変化に目を配り、新しい職に就くことに適応するための汎用性の高い能力を身につけることが非常に重要です。取って付けたような締めになりますが、そうした広い視野や能力を養うには経済学はぴったりな学問だと思います。ぜひ授業でお会いしましょう。